

1. 自己点検・評価の目的、方法等について

1-1:自己点検・評価の目的

自己点検・評価の目的:

AI・データサイエンス教育プログラム(通称:iDS プログラム)は、AI・データサイエンス全学プログラムの発展として位置づけられ、全学部生を対象として開講しています。このプログラムは[「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度\(応用基礎レベル\)」](#)への申請を計画しています。認定の要件において、自己点検・評価活動の実施が定められており、AI・データサイエンスセンターの組織別評価委員会での評価活動をこれに充てます。

自己点検・評価の方法:

iDS プログラムのうち、プログラムの中核を構成する以下科目を対象として自己点検・評価を実施します。

AI・データサイエンスツール I
AI・データサイエンスツール II
AI・データサイエンスツール III
AI・データサイエンスツール IV
AI・データサイエンスツール総合
AI・データサイエンス演習 A(1)
AI・データサイエンス演習 A(2)
AI・データサイエンス演習 B(1)
AI・データサイエンス演習 B(2)

1-2:自己点検の項目と評価基準について

項目:

[「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度\(応用基礎レベル\)」](#)の創設について(2021 年3月 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議)の 2.2.1「認定教育プログラム(応用基礎レベル)」の要件(8)質保証(自己点検・評価)に掲げられている「審査の観点」に沿った項目としています。

自己点検内容:別紙資料等にある関連内容を記載しています。

評価:以下の分類に従い評価を行っています。

S:諸活動は極めて高い水準にある
A:諸活動は高い水準にある
B:諸活動は高い水準に至っておらず、不十分な状況にある
C:諸活動には重大な問題点があり、速やかな改善が求められる
F:評価不能一判断材料等の不足により、具体的な判断ができない

2. AI・データサイエンス教育プログラム(通称:iDS プログラム)について

「iDS(Intermediate Program for Data Science and AI)プログラム」は「AI・データサイエンス演習」の受講者を対象として、AI やデータサイエンスの技術や知識を習得し、各学部の特長分野で活用する力を身につける学部横断的プログラムです。2年次から4年次の3年間のゼミ活動では、所属ゼミのテーマに沿って、データの収集・分析・考察・活用を行い、データに基づいて課題発見、解決できる力を修得します。また、演習での課題解決型学修に加えて、基幹科目として位置づけられる「AI・データサイエンスツール」と所属学部の関連科目を体系的に学ぶことで、データ活用に必要な技術や知識に磨きをかけていきます。科目内容、履修者数やアンケート結果等資料を御参照ください。

3. 資料等

1)取組概要

2)シラバス(前期、後期)

3)履修者実績

4)授業アンケート結果集計

5)授業アンケートコメント

6) 情報関連教育プログラム、AI・データサイエンス教育プログラム部門授業担当者委員会において開陳された主な意見

7)[「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度\(応用基礎\)」の創設について](#)

リンクのみ

3. AI・データサイエンス教育プログラム(通称:iDS プログラム)自己点検・評価レポート(案)

3-1:学内からの視点

No.	項目	自己点検内容	評価 (前年度)
1	プログラムの履修・修得状況、学修成果	・プログラム参加要件となる科目「AI・データサイエンス演習(A)(B)(C)」の履修者は96名(2年次(A):33名、3年次(B):27名、4年次(C):36名)となった。 ・本プログラム履修者数のKPIは、定員240名の70%(168名)としている。2025年度は目標を下回る結果となったので、その原因を追究するとともに関係科目の履修者への周知強化を図る。	B (B)
2	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、後輩等他の学生への推奨度	・科目「AI・データサイエンス演習」において、授業アンケートの質問項目「この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた」の評価平均は、前期6.5、後期6.3となり、全体平均(前期5.6、後期5.7)を上回る値となった。 ・科目「AI・データサイエンス演習」において、授業アンケートの質問項目「学生が能動的に参加したくなるような授業であった」の評価平均は、前期6.5、後期6.6となり、全体平均(前期5.6、後期5.7)を上回る値となった。 ・科目「AI・データサイエンス演習」において、質問項目「本科目の履修を後輩や友人に推奨しますか」の評価平均は、前期6.1、後期6.0となり、全体平均(前期5.6、後期5.7)を上回る値となった。	A (A)
3	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	・プログラム開設初年度より、全学部生を対象として開講している。 ・全ての学部生から履修がなされた。	S (S)

3-2:学外からの視点

No.	項目	自己点検内容	評価
4	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	・2025年度に本プログラムを修了し就職した学生22名の業種別就業状況は、通信・情報サービス7名、卸・小売5名、金融・保険5名、メーカー3名、サービスその他1名、公務1名となっており、今後各分野で活躍することが期待される。	A (A)
5	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	・科目「AI・データサイエンス演習」では、企業との共同研究を基にした活動が3件実施されている。また公開の統計データの活用や社会調査の実施等、実データの利用を積極的におこなっている。 ・関連科目として位置づけている「AI・データサイエンス総合」は、実務家の講義を中心とした科目で構成されており、複数の実務家の講義を受けることができている。2024年度に本学と学術連携協定を締結したエヌビディア合同会社からは講師を招聘し、講義とグループワークを行った。	S (S)

3-3: 不断の改善・進化に向けた取り組み

No.	項目	自己点検内容	評価
6	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	- 科目「AI・データサイエンス演習」において、授業アンケートの質問項目「この授業に対する総合的な満足度について」の評価平均は、前期 6.4、後期 6.4 となり、全体平均(前期 5.7 後期 5.8)を上回る値となった。 - 授業アンケートの質問項目「この授業によって、自身の能力の高まりや成長につながった」の評価平均は、前期 6.5、後期 6.5 となり、全体平均(前期 5.7、後期 5.7)を上回る値となった。	A (A)
7	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	- 科目「AI・データサイエンス演習」において、授業アンケートの質問項目「講義要項(シラバス)に示されていた学習目標や内容と合致していた」の評価平均は、前期 6.4、後期 6.0 となり、全体平均(前期 6.1、後期 6.1)を上回る値となった。 - 科目「AI・データサイエンス演習」において、授業アンケートの質問項目「担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった」の評価平均は、前期 6.8、後期 6.7 となり、全体平均(前期 5.6、後期 5.8)を上回る値となった。	A (A)
8	外部・内部環境を踏まえ、より教育効果の高まる授業内容・方法にすること	- 科目「AI・データサイエンス演習」では、1年間の成果を学内外に公開する「IDS 成果報告会」を 2026 年 2 月に実施した。また学修内容に関連する実務家のゲスト講義を複数回実施した。 - 関連科目として位置づけている「AI・データサイエンス総合」は、実務家の講義を中心とした科目で構成されており、複数の実務家の講義を受けることができる。 - プログラミング等を学修する基幹科目「AI・データサイエンスツールⅠ～Ⅳ」は、受講者のスキルに合わせた学修が可能なオンデマンド型で授業を行っている。ツールⅠは実務家が講師となっている。	A (A)
9	全学的な履修者数・履修率向上の計画を進捗させること	- 科目「AI・データサイエンス演習」は、遠隔授業(ハイフレックス型)にて実施し、担当教員と異なるキャンパスからの履修も可能としている。 - プログラミング等を学修する基幹科目「AI・データサイエンスツールⅠ～Ⅳ」は、受講者のスキルに合わせた学修が可能なオンデマンド型で授業を行っている。 - プログラムへの認知、関心を高めるため、活動の様子を公式ウェブサイトや SNS にて発信している。	A (A)